

つきたい力：池島学園「子どもたちにつきたい力」より抜粋

・自ら題材を見つけ、自分の考えを相手に効果的に伝えるように工夫して書くことができる。

取組みの概要・ポイント

- ・遠隔地交流の取組みに、1人1台端末を効果的に活用する場面(思いや考えを表現する場面)を導入する。
- ・学習や交流を進める中で出てきた疑問や考えを、講師や他校の生徒に直接伝えたり聞いたりすることができる。
- ・学習したことや講演を通して、感じたことや考えたことを対面やクラウド上で交流し、考えや思いを深める。

具体的な取組みの内容 遠隔地との交流を通して

防災教育：助けられる人から助ける人へ

教師の被災地訪問・支援の経験から学ぶ

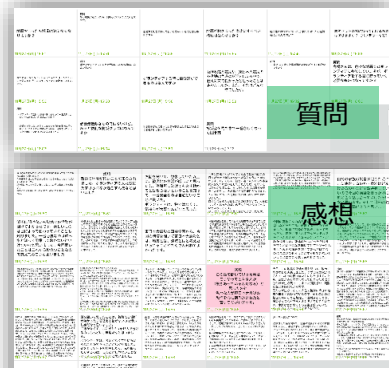
一般社団法人四つ葉代表 高橋伸実さんの講演

身近な教師の体験談を聞き、学習内容を身近なものに近づける。

ニュースや動画を見るだけではわからない、避難所生活で実際にあった問題や大変だったことを詳しく聞くことができた。



学んだ感想や疑問に思ったことを共有



実際に被災地でボランティア活動していた高橋さんの言葉には、映像では伝わりきれない「重み」があった

生徒会：オンライン交流

みそあじ交流



生徒会活動や委員会活動、小中連携、校則等の交流

校則に関する取組みはこちら



平和学習：ドイツ国際平和村

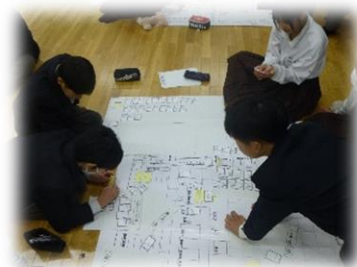


端末に記録していた疑問や気になったことを直接質問しながら交流した。

HUG(避難所運営ゲーム)

オンライン授業

学園避難訓練 (地域防災)



いつ起こるかわからない震災に向けて、頭をつき合わせて真剣に取り組むことができていた。



感じた疑問や質問を、クラウド環境を活用しながら伝え、回答してもらおうと、より我々事として考えを深めることができた。

取組みを通しての子どもの変容

- ・遠隔地のさまざまな人との関わりを通して、学習内容をより身近なこととして捉えて表現し、考えを深めることができた。
- ・「いざという時には自分たちが周りを助けなければならない」「平和を願うこともすごく大事だと思うけど、行動しないと何も変わらない」など、行動につなげようという自覚をもつ生徒が増えた。
- ・チャレンジテストアンケート【R5.9月】問4「授業中、PC・タブレットを使って学級の友だちと意見交換する場面はどれくらいありますか？」で、毎日+週3回以上で62%【府：32.5%】であった。

